



**シーシーエス株式会社**

**2016年7月期 通期 決算説明**

**2016年9月8日**

- 1. 2016年7月期 連結決算概要**
- 2. 2016年7月期 事業分野別の状況**
- 3. 2016年7月期の取組み**
- 4. 今後の取組み**
- 5. 参考資料**

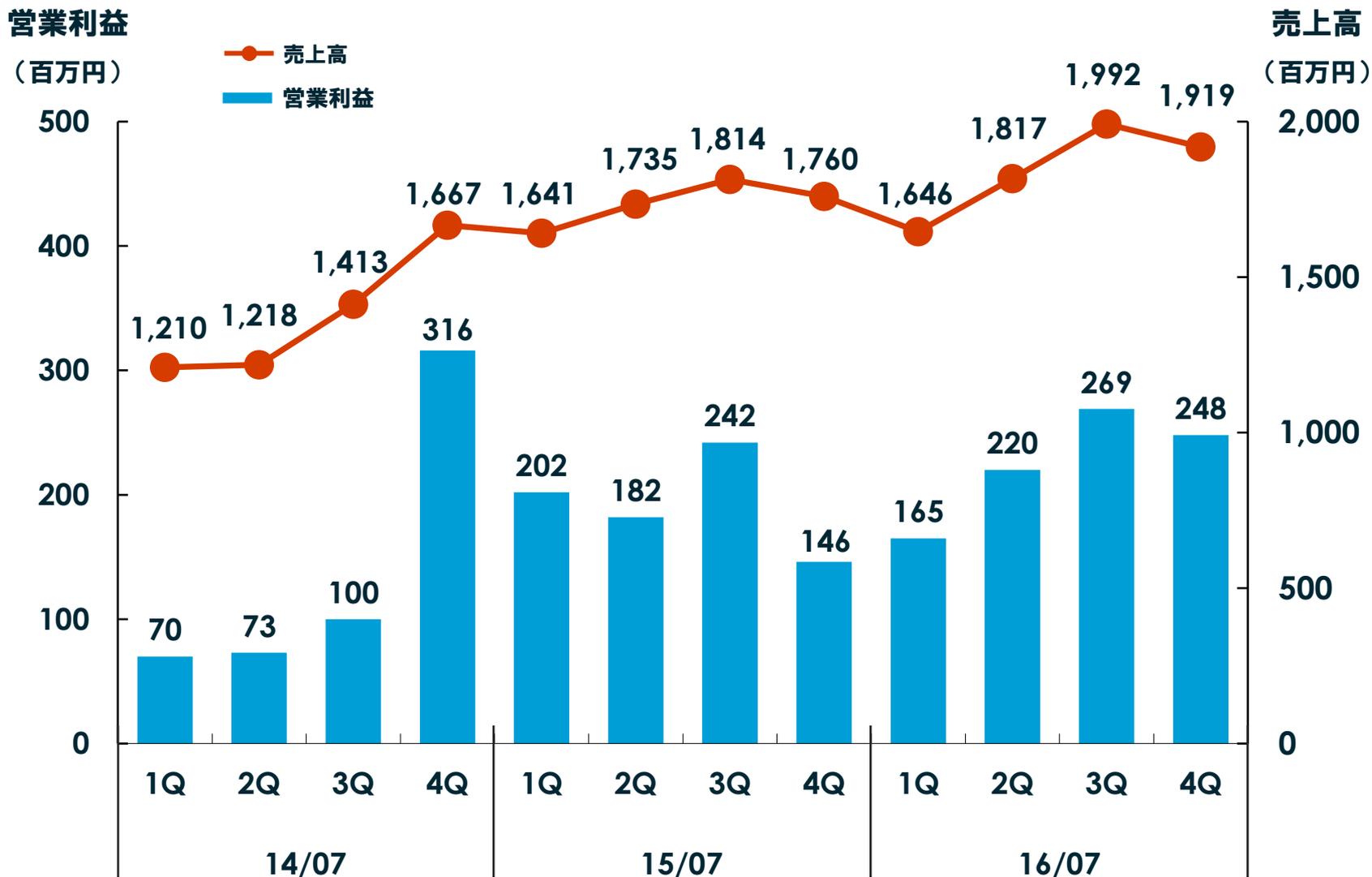
- 1. 2016年7月期 連結決算概要**
2. 2016年7月期 事業分野別の状況
3. 2016年7月期の取組み
4. 今後の取組み
5. 参考資料

# 2016年7月期 連結決算概要

(単位:百万円)

	15/07		16/07		前年同期比	
	金額 [A]	売上比	金額 [B]	売上比	[B]-[A]	[B]/[A]-1
売上高	6,951	-	7,376	-	+425	+6.1%
売上総利益	4,058	58.4%	4,309	58.4%	+251	+6.2%
販管費	3,284	47.3%	3,404	46.2%	+119	+3.6%
営業利益	773	11.1%	904	12.3%	+131	+17.0%
経常利益	760	10.9%	880	11.9%	+120	+15.9%
親会社株主に帰属する当期純利益	772	11.1%	615	8.3%	▲157	▲20.4%

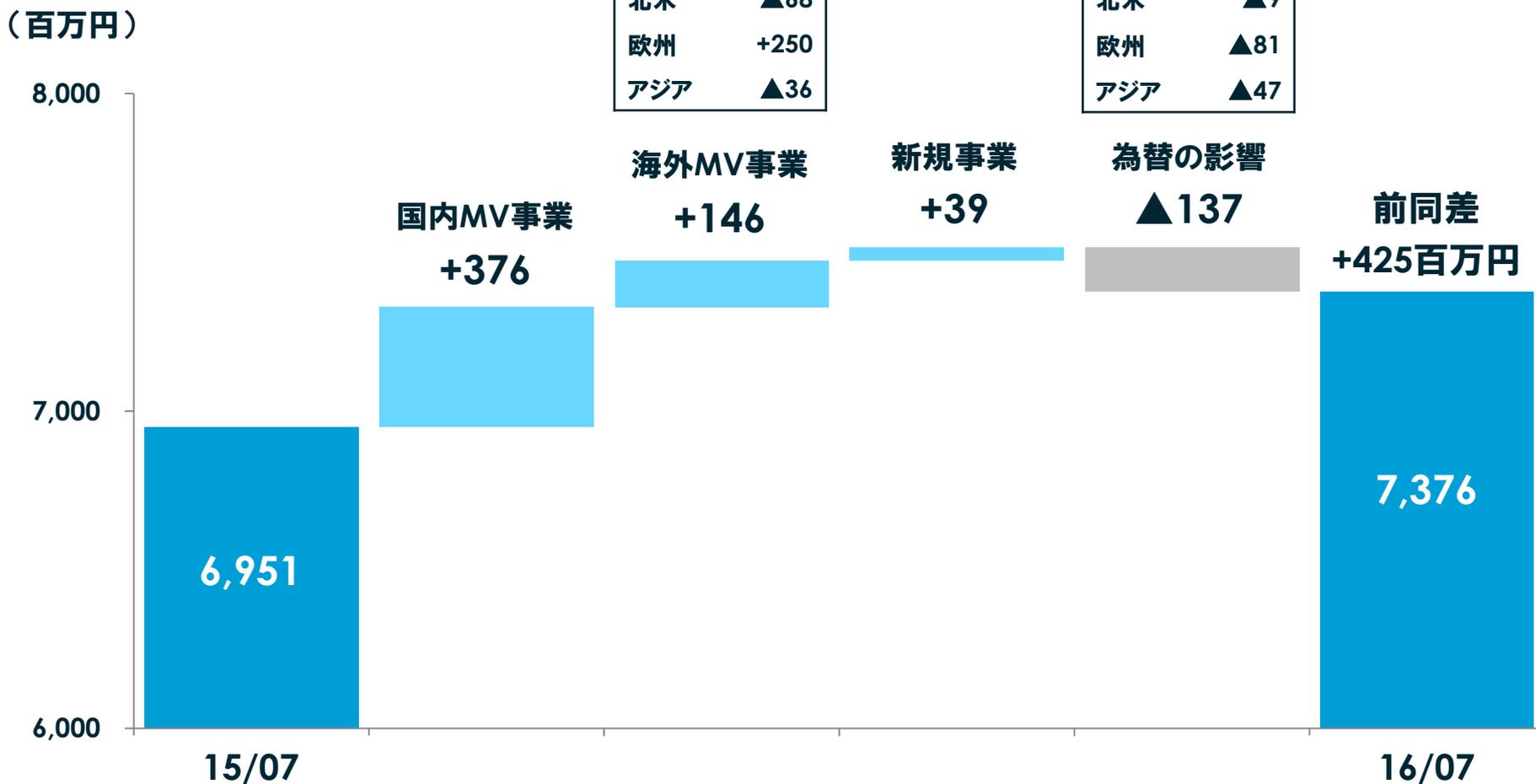
## 売上高、営業利益ともに概ね計画通りの進捗



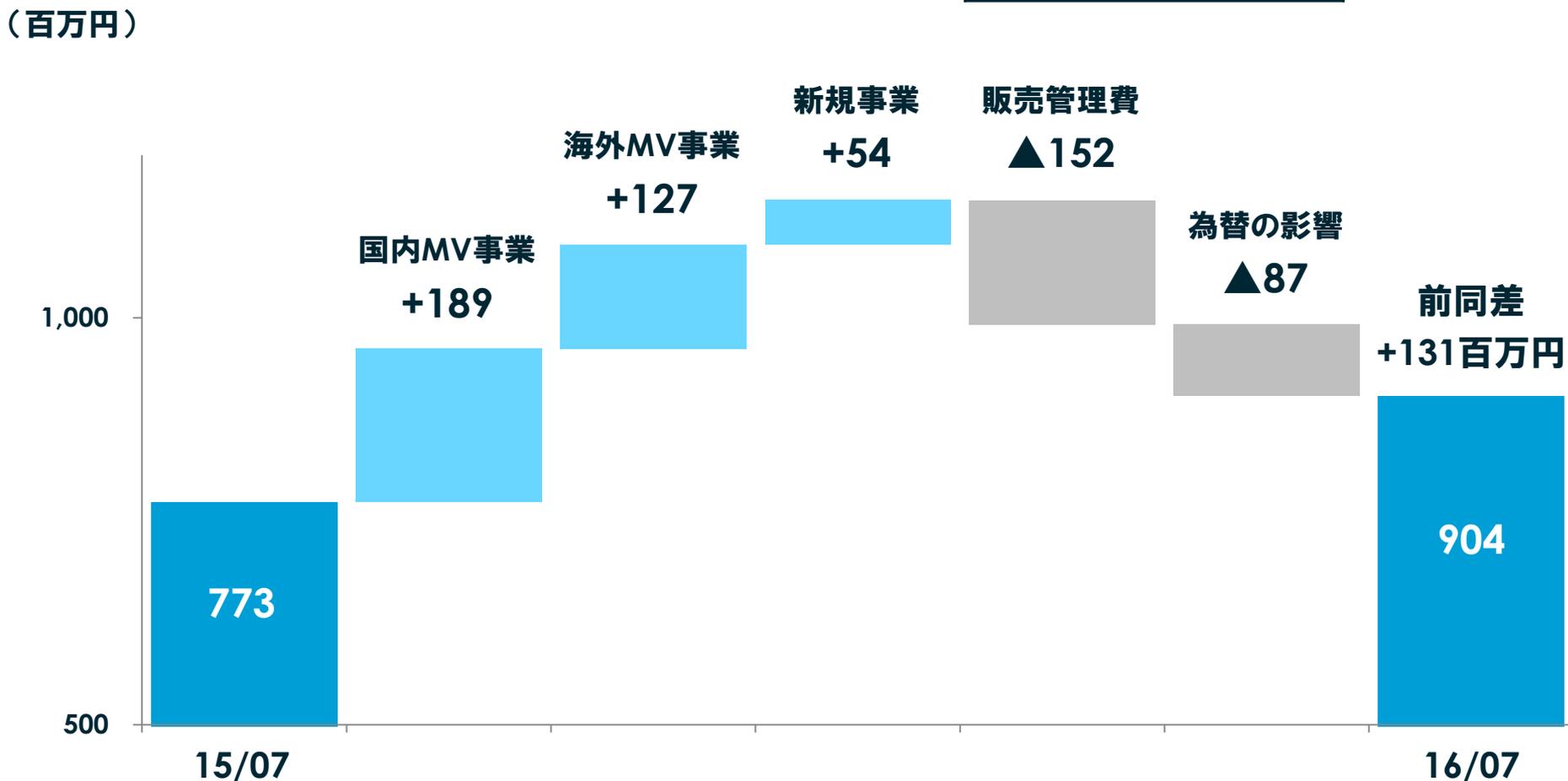
# 売上高の増減要因

為替レート（期中平均）

通貨	15/07	16/07
USD	116.52円	115.18円
EUR	137.03円	127.78円



# 営業利益の増減要因



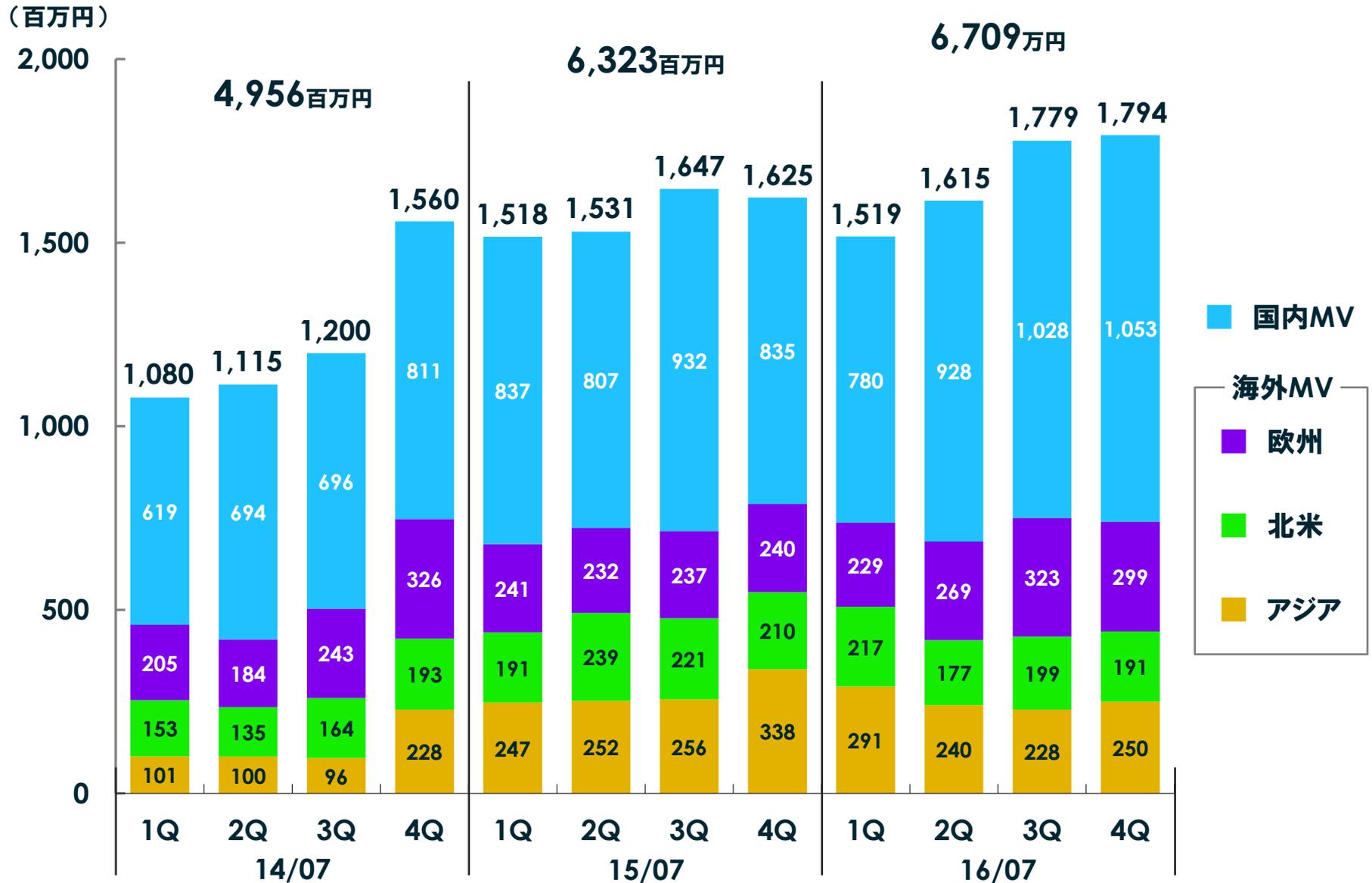
# 連結貸借対照表

(単位:百万円)

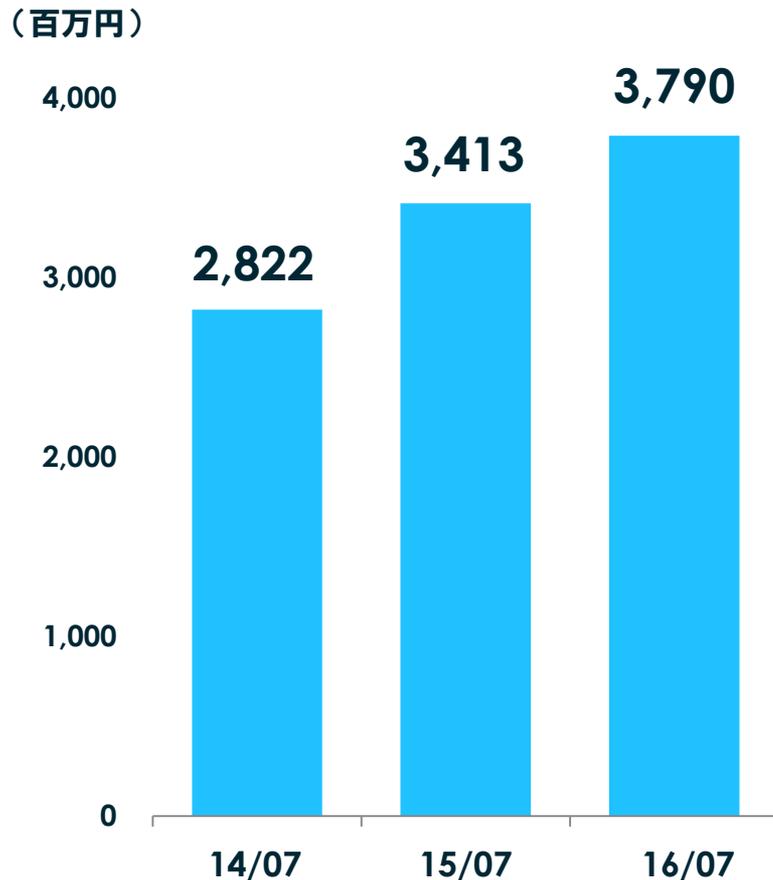
資産	15/07 期末	16/07 期末	負債・純資産	15/07 期末	16/07 期末
現金及び預金	2,216	1,902	流動負債	1,815	1,780
受取手形及び売掛金	1,658	2,061	固定負債	776	583
たな卸資産	1,051	1,169			
その他	190	185			
<b>流動資産合計</b>	<b>5,116</b>	<b>5,318</b>	<b>負債合計</b>	<b>2,591</b>	<b>2,363</b>
有形固定資産	1,021	1,037	資本金	462	462
無形固定資産	140	133	資本剰余金	1,460	1,460
投資その他の資産	385	246	利益剰余金	1,909	2,415
			為替換算調整勘定	84	▲100
			非支配株主持分	155	135
<b>固定資産合計</b>	<b>1,547</b>	<b>1,418</b>	<b>純資産合計</b>	<b>4,072</b>	<b>4,373</b>
<b>資産合計</b>	<b>6,664</b>	<b>6,737</b>	<b>負債・純資産合計</b>	<b>6,664</b>	<b>6,737</b>

1. 2016年7月期 連結決算概要
- 2. 2016年7月期 事業分野別の状況**
3. 2016年7月期の取組み
4. 今後の取組み
5. 参考資料

# MV事業 地域別売上高の推移

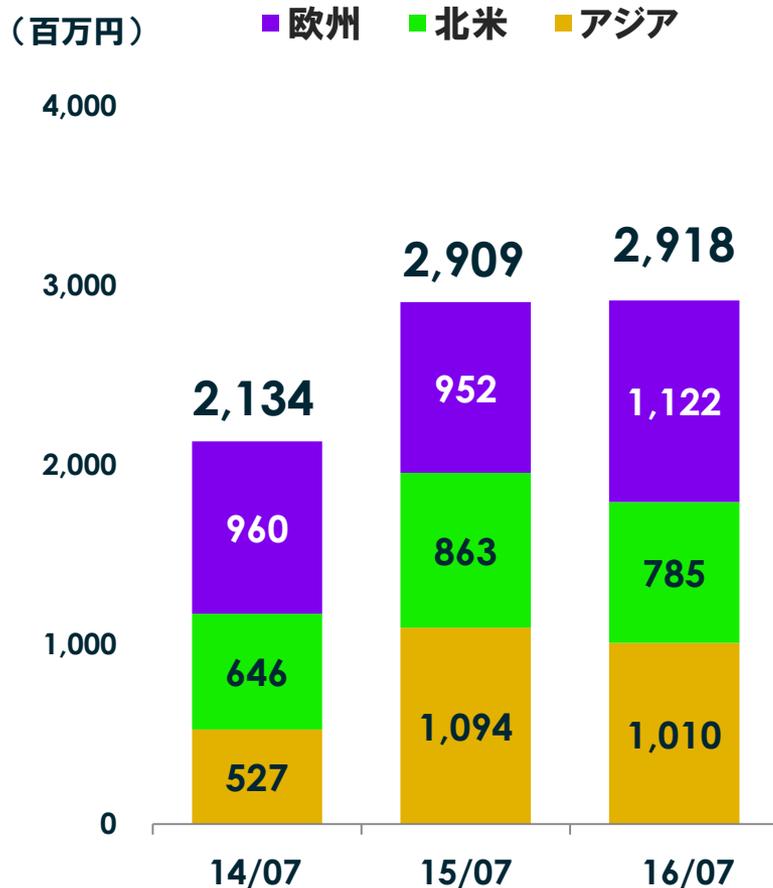


## 通期売上高の推移



- 前年同期比 11.0%増
- 営業的空白区・混戦区にテストングループを開設し、顧客へのサポート体制を強化
- 訪問件数管理・案件進捗管理など、顧客密着型の営業活動を継続
- レンズ・カメラなどの周辺商材を含めたソリューション提案の取組みにより、受注機会が増加
- ソリューションの拡充に向けて、同業他社・周辺商材を取扱う企業とのアライアンスを推進

## 通期売上高の推移



- 為替の影響を受けたが、前年同期比で微増

### (欧州)

- 半導体市場の回復基調により、大手顧客向けの売上が増加
- 顧客へのサポート体制強化と特注対応のスピードアップのため、技術スタッフを増強

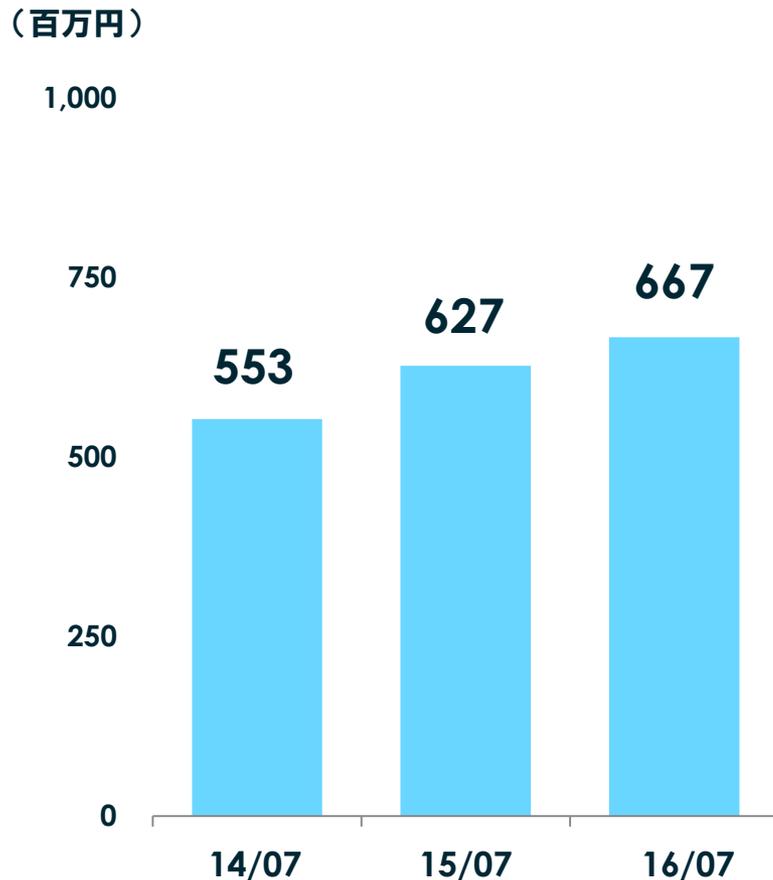
### (北米)

- 製造業の多くが設備投資を先送りしたため売上が低迷したが、これまでの営業活動が実を結び新規案件が増加
- エルパソに開設したテストングルームを拠点にメキシコなど新規エリアの開拓が進む

### (アジア)

- シンガポール、マレーシア、タイで売上が堅調に推移
- 中国は景気減速の影響を受け、ペースダウン

## 通期売上高の推移



- 前年同期比 6.3%増

### (デバイスビジネス)

- 当社の強みである「自然光LED」の商品展開は積極的に推進

### (美術館・博物館向けビジネス)

- 大型案件が売上に寄与

#### 【導入実績】

平成28年3月に京都国立近代美術館  
平成28年6月に国立民族学博物館

### (UVビジネス)

- 印刷業界向け高出力UV照射器の出荷を本格的に開始
- アライアンスにより商材を拡充

1. 2016年7月期 連結決算概要
2. 2016年7月期 事業分野別の状況
- 3. 2016年7月期の取組み**
4. 今後の取組み
5. 参考資料

## 重点施策

1. 経営体質の強化
2. 事業基盤の強化
3. 開発力の強化と革新

### 1. 経営体質の強化

結果

- ・ 人材育成によるスキル向上と組織力強化
- ・ コーポレートガバナンス・コードへの対応



### 2. 事業基盤の強化

結果

- ・ テスティングルームの開設
- ・ アライアンスの推進
- ・ 新製品の販売開始



### 3. 開発力の強化と革新

結果

- ・ 新事業展開に結びつく技術シーズの発掘
- ・ 製品の信頼性と開発スピードを高める評価技術力の強化



## テストングループの開設

### 営業的激戦区・未開拓エリアでのサポート体制強化

前期の2拠点開設に続き、2015年10月に3拠点開設

- ・ 本厚木（神奈川） ・ 淀屋橋（大阪）
- ・ サンノゼ（米国） CCS America, Inc.



## アライアンスの推進

### 製品ラインアップを拡充し、提案力を強化

電源の専門メーカー「京都電機器株式会社」と業務提携

当社の高出力UV照射器の仕様に合わせた高出力電源を

京都電機器が開発し、2015年9月に販売を開始



高出力UV照射器  
(当社製品)

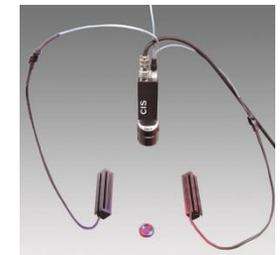


高出力UV照射器用電源  
(京都電機器製品)

産業用カメラメーカー「株式会社シーアイエス」と産業用カメラを共同開発

2015年12月発売 『小型スマートライティングCoaXPressカメラ』

小型カメラの筐体にLED照明コントローラを内蔵し、カメラの供給電源を活用することで同軸ケーブル1本でLED照明とカメラを駆動、パソコンからの制御が可能



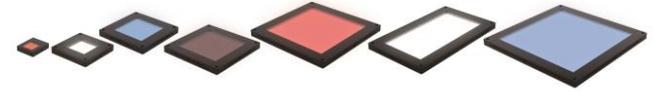
使用イメージ

## 新製品の販売開始

### 画像処理検査用LEDフラットドーム照明「LFX3シリーズ」(2016年4月発売)

従来比3倍の明るさを実現し、サイズ・色のラインアップを追加

従来品のリニューアルに加え、新製品として鏡面状検査対象物の凹凸検出に最適な「ラインパターン照明」を開発



「LFX3シリーズ」製品写真

### 画像処理検査用パワーフラッシュLED照明・電源「PFシリーズ」(2016年5月発売)

従来品比較で約7倍の照度を達成、検査用LED照明では業界初となる明るさ

当社従来品に比べ10倍以上のラインスピードに対応可能となり、製造ラインの高速化に貢献



「PFシリーズ」照明



「PFシリーズ」電源

### 画像処理検査用LED照明「UV2シリーズ」ラインアップ拡充(2016年2月発売)

従来品の3倍の放射照度を実現したナロータイプを6機種追加

### 照明調光機能付き画像処理用LED照明「IUシリーズ」(2016年1月発売)

欧米でニーズの高い、スマートカメラと一体でのコントロールに対応

### ストロボ・オーバードライブ電源「PODシリーズ」(2015年12月発売)

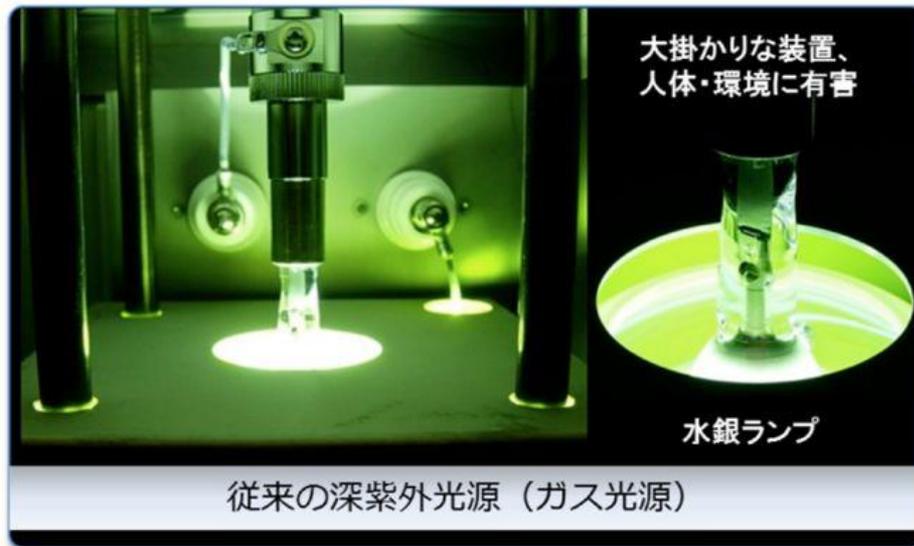
LED照明の細やかな調光コントロールを実現し、製造ラインの多様化に対応

## 新事業展開に結びつく技術シーズの発掘

### 科学技術振興機構のA-STEP(シーズ育成タイプ)に採択

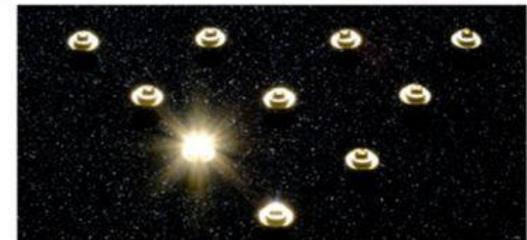
- 高出力化を実現する深紫外LED光源技術の開発

情報通信研究機構(NICT) 井上振一郎氏との共同開発で、高出力深紫外LEDの実用化を目指す



### 深紫外LED

圧倒的な小型化、  
高効率化、低コスト、  
波長選択性、  
低環境負荷、  
メンテナンスフリー



(出典) 国立研究開発法人情報通信研究機構 <http://www.nict.go.jp/press/2015/04/01-2.html>

従来の深紫外光源から小型・低コスト・低消費電力・自由な波長選択が可能な深紫外LEDへの置き換えが切望されている

1. 2016年7月期 連結決算概要
2. 2016年7月期 事業分野別の状況
3. 2016年7月期の取組み
- 4. 今後の取組み**
5. 参考資料

# 2016年12月期 連結業績予想

(単位:百万円)

	16/12 ※ (2016/08~2016/12)		16/07 2Q (2015/08~2016/01)		16/07 (2015/08~2016/07)	
	金額	売上比	金額	売上比	金額	売上比
売上高	3,000	-	3,464	-	7,376	-
売上総利益	1,700	56.7%	2,022	58.4%	4,309	58.4%
販管費	1,530	51.0%	1,636	47.3%	3,404	46.2%
営業利益	170	5.7%	386	11.1%	904	12.2%
経常利益	160	5.3%	372	10.8%	880	11.9%
親会社株主に帰属 する当期純利益	100	3.3%	242	7.0%	615	8.3%

※ 決算期の変更に伴い、2016年12月期は5ヵ月の変則決算となります。

※ 2016年12月期が5ヵ月の変則決算となるため、3ヵ年の中期経営計画の公表は見送ります。

# 事業推進の考え方 事業拡大に向けて

地理的な拡大

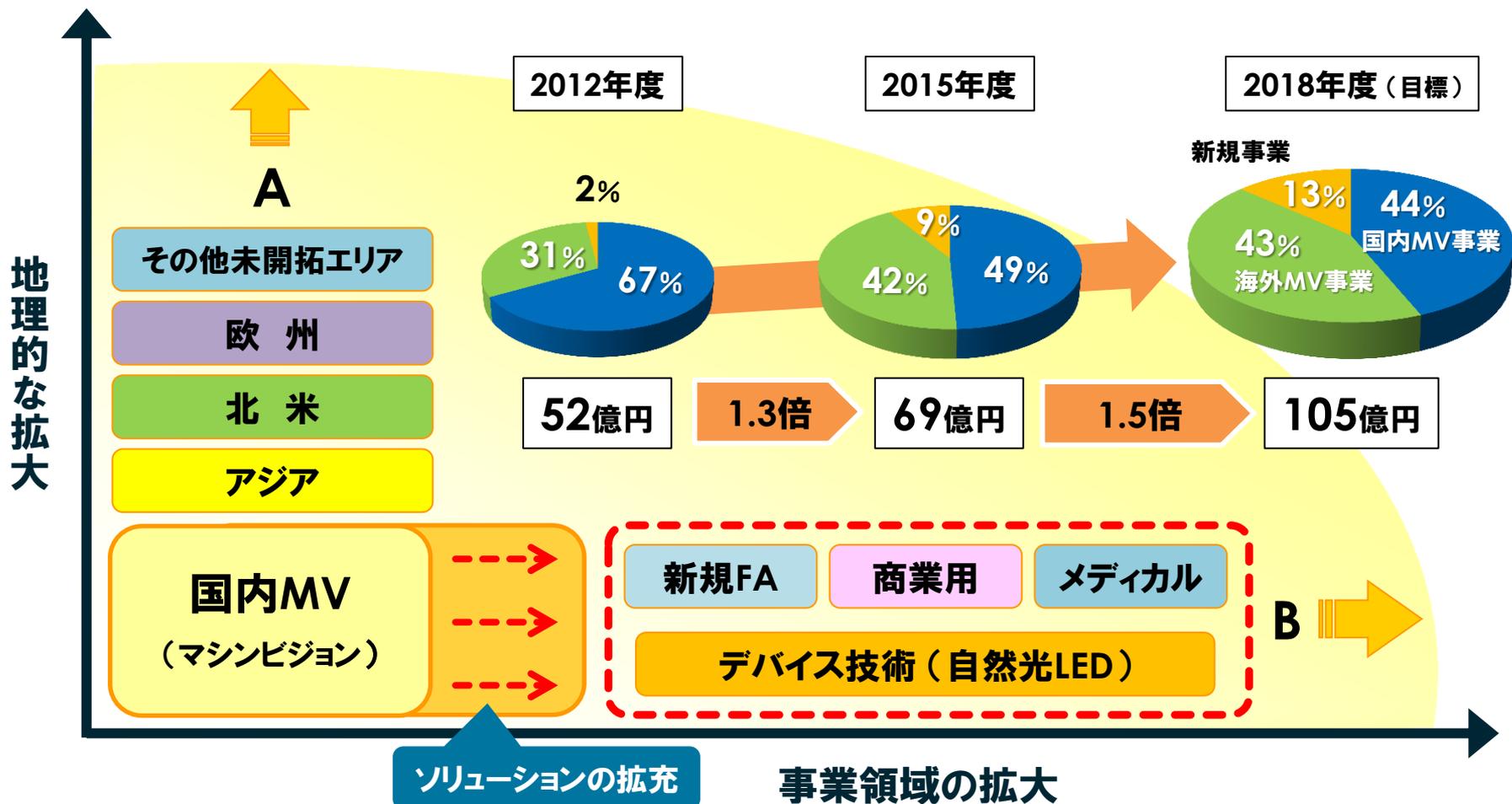
MV事業の海外展開

事業領域の拡大

当社の強みを発揮できる事業領域への展開を推進

ソリューションの拡充

事業連携による周辺機材を含むシステムソリューション提案の加速



※ 2016年7月期～2018年7月期の中期経営計画の数値になります。

## 1. 融合・協創による企業価値の最大化

- 1) 事業融合によるシナジー効果の最大化
- 2) オプテックス・エフエー株式会社との強力タッグマッチによる協創
- 3) 経営マネジメント基盤のグループ順応化

## 2. 経営体質の更なる強靱化

- 1) ソリューションの革新と拡充
- 2) 経営インフラの充実・強化
- 3) 企業文化の醸成と企業風土の改革・浸透

## 3. 現場力の継続的革新

- 1) 顧客に寄り沿う製品企画と地を這う泥臭い営業
- 2) 商品技術の磨き上げと先行技術への果敢な挑戦
- 3) モノづくり力の進化と深化

# オプテックス株式会社による当社のTOB

2016年5月31日付で、オプテックス株式会社が当社の親会社になりました

## 防犯関連

売上高構成比率

51% ※

屋外用侵入検知センサで世界トップシェア。



## 自動ドア関連

売上高構成比率

16% ※

「自動ドアセンサ」分野で世界トップクラスのシェア。日本では約60%のシェア。



## FA事業

売上高構成比率

20% ※

オプテックス・エフエーが事業展開。世界No.1産業用センサメーカー SICK AG社と技術提携。



## その他の分野

売上高構成比率

13% ※

計測機器関連  
工場排水などの水質測定に  
交通機器関連  
安全運転の促進に



※ 2015年12月期実績

## 会社概要

(2016年6月30日現在)

会社名	オプテックス株式会社
所在地	滋賀県大津市
代表者	取締役会長 兼 代表取締役社長 小林 徹
設立	1979年5月25日
資本金	27億9,827万円
連結売上高	277億93百万円 (2015年12月期)
従業員数	連結:1,644名 単体:288名
証券コード	6914 (東証 第一部)

会社名	オプテックス・エフエー株式会社
所在地	京都市下京区
代表者	代表取締役社長 小國 勇
設立	2002年1月7日
資本金	5億5,324万円
連結売上高	56億50百万円 (2015年12月期)
従業員数	連結:200名 単体:127名
証券コード	6661 (東証 JASDAQ)

# オブテックス・エフエー株式会社とのシナジー

2016年4月7日に、**オブテックス・エフエー株式会社**と包括的業務提携契約を締結



画像処理用LED照明装置および  
制御装置の開発、製造、販売



ファクトリー・オートメーション用光学センサ  
関連機器、装置の企画開発・製造・販売

## 各社の 強み

画像処理用LED照明に併せてカメラ・レンズなどの  
周辺商材を提案するソリューション力

画像処理用LED照明の市場において、国内・  
海外ともにトップシェア

ソリューション提案を実現させる商品開発力・  
モノづくり力

各種産業用センサ、画像処理・検査用LED照明  
など幅広いラインアップ

SICK AG社との協業や中国子会社を通じて  
世界60ヶ国以上での販売実績

製造はグループ協力企業で行い、研究開発と  
マーケティングに特化したファブレス経営

## シナジー (見込)

- ・ 顧客へのソリューション提供の幅を広げ、事業の拡大と効率化を図る
- ・ 新製品の開発計画を調整するなど、開発リソースの効率化、品質向上を図る
- ・ 調達、生産拠点を相互活用し、生産効率を図る

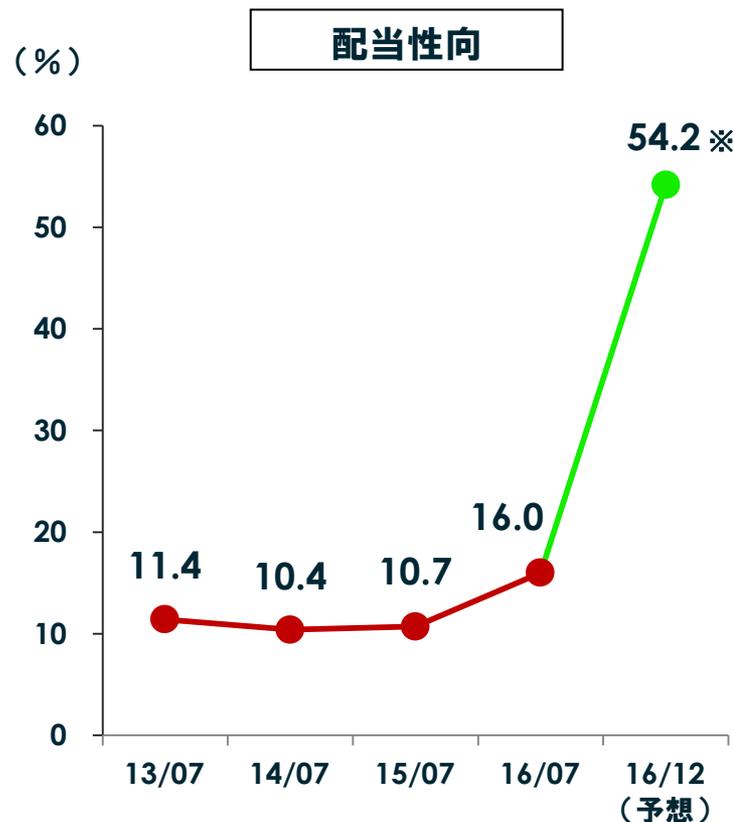
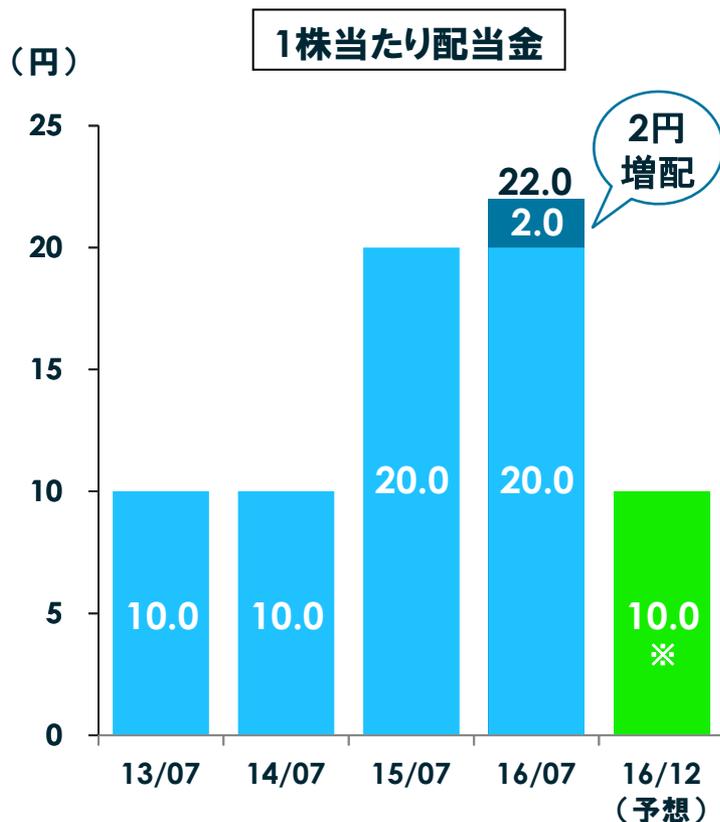
## 目標

オブテックス・エフエーとの強力タッグマッチにより、MV業界の断トツトップへ

## 配当方針

2015年9月に業績連動型配当政策を導入  
連結配当性向20%～30%を目標とする

※ 2016年12月期が5ヵ月の変則決算となるため、配当金は前期実績の期間按分から算出しております。



- 2014年2月1日付で普通株式1株につき200株の割合で株式分割を行っております。  
1株当たり配当金は、当該株式分割に伴う影響を加味し、過去に遡って修正した数値を記載しております。
- 2016年5月2日にA種優先株式が普通株式に転換された結果、普通株式が1,279,829株増加しております。

# 『進化と融合』

1. 2016年7月期 連結決算概要
2. 2016年7月期 事業分野別の状況
3. 2016年7月期の取組み
4. 今後の取組み
- 5. 参考資料**

商号	シーシーエス株式会社
本社所在地	京都府京都市上京区烏丸通下立売上ル桜鶴円町374
代表者※	代表取締役社長 各務 嘉郎
設立	1993年10月
資本金	462百万円
従業員数	連結:283名(91名) 単体:203名(42名) 注:外書き( )内は臨時従業員数
発行済株式総数	普通株式 5,417,829株 注:2016年5月2日にA種優先株式が普通株式への転換された結果、普通株式が1,279,829株増加しています。
株主数	普通株式 2,260名
主な連結子会社	CCS America, Inc. / CCS Asia PTE.LTD. / CCS Europe N.V. 東莞銳視光電科技有限公司(Rsee)
拠点	国内 10ヵ所 京都本社、生産センター、光技術研究所 東京、名古屋、仙台、本厚木、金沢、守山、淀屋橋 海外 10ヵ所 ボストン、エルパソ、サンノゼ、ベルギー、シンガポール タイ、上海、深圳、東莞、台湾 (主な連結子会社含む)



※ 2016年8月3日現在

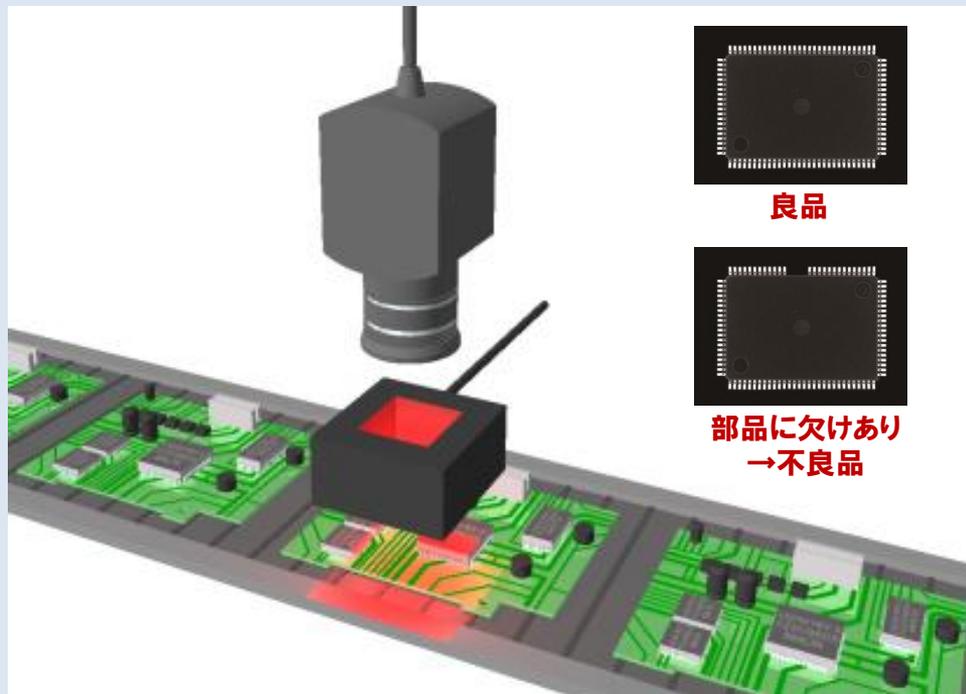
1993	10月	シーシーエス株式会社設立
1999	10月	CCS America, Inc.を設立
2000	5月	東京営業所を開設
2003	9月	上海駐在員事務所を開設
2004	9月	RDV(S)PTE LTD社(現 CCS Asia PTE.LTD)を子会社化
	11月	CCS Europe NVを設立
	12月	ジャスダック証券取引所に上場
2007	7月	生産センターを開設
	10月	仙台 テスティングルームを開設
	11月	山口大学と「自然光LED」照明を共同開発
2008	1月	光技術研究所を開設
	3月	深圳駐在事務所を開設
	8月	名古屋営業所を開設
2010	12月	CCS Asia PTE.LTD.バンコク駐在員事務所を開設
2011	5月	CCS-ELUX LIGHTING ENGINEERING PVD.LTD.を設立
2013	10月	台湾駐在員事務所を開設
2014	1月	東莞鋭視光電科技有限公司を設立
		CCS America, Inc.エル・パソ テキサス テスティングルームを開設
	8月	金沢 テスティングルームを開設 守山 テスティングルームを開設
2015	10月	CCS America, Inc.サンノゼ テスティングルームを開設
		本厚木 テスティングルームを開設
		淀屋橋 テスティングルームを開設
2016	5月	オブテックス株式会社による公開買付けにより同社の子会社となる
	8月	監査等委員会設置会社に移行

## (参考) LED開発の歩み

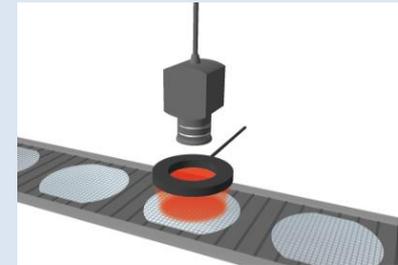
1962年	赤色と黄緑色を開発
1970年代	赤色と黄緑色が実用化
1993年	青色が製品化
1995年	純緑色を開発
	光の三原色がそろう
1996年	白色を開発
現在	発光効率の向上
	高演色性白色の開発

CCSは、画像処理用LED照明市場で国内・海外ともに  
トップシェアを占める リーディングカンパニーです。

## 画像処理とは？



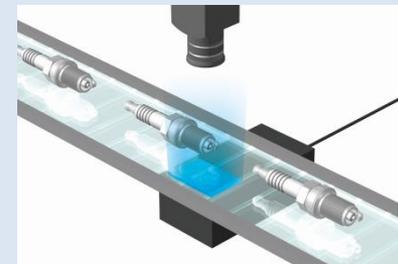
・プリント基板の実装部品欠陥検査



・ウェハのチリ/ホコリ撮像



・ガラス瓶の刻印撮像



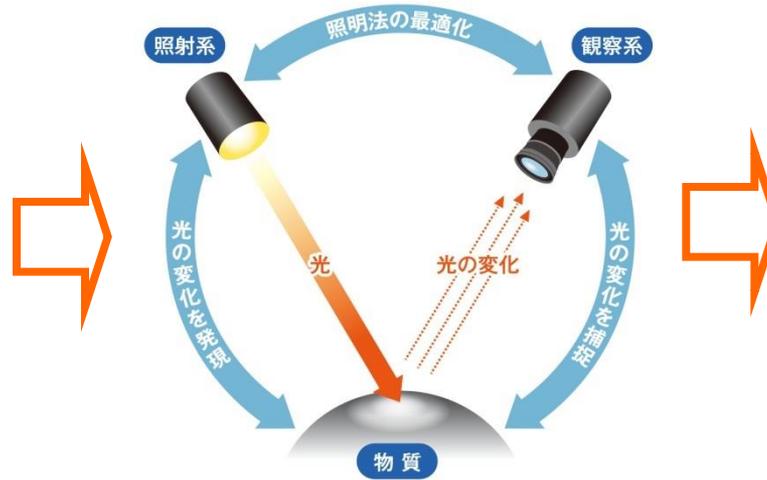
・プラグの電極ギャップ撮像

## <照明法の最適化>



500円硬貨

流通している硬貨。  
実際に検査しているものではありません。



伝搬方向を最適化  
見えなかった、  
500円の文字を抽出。

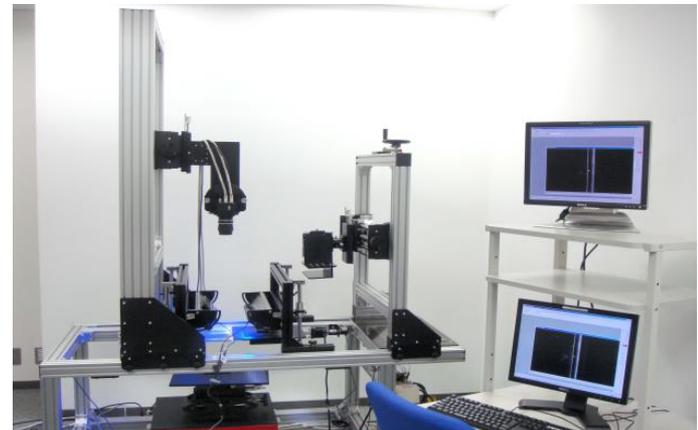
同じ対象物でも見え方が全く異なります。  
この光の選び方が技術・ノウハウである、  
**「ライティングソリューション」**です。

## 信頼の実績とサポート体制

- 50,000件以上のワーク撮像実績
- 約10,000機種のカスタム照明の設計・開発・製作
- 数百種類、一万台以上に及ぶ無料貸出機を準備
- エリア実験室、ラインセンサ用実験室を完備



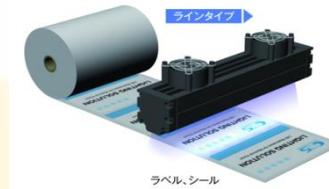
エリア実験室



ラインセンサ用実験室

## 新規事業

■ UVインクの硬化



## UVビジネス

### 美術館・博物館 ビジネス



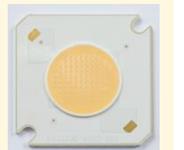
### メディカルビジネス



### アグリバイオ ビジネス



### デバイスビジネス



## MV事業

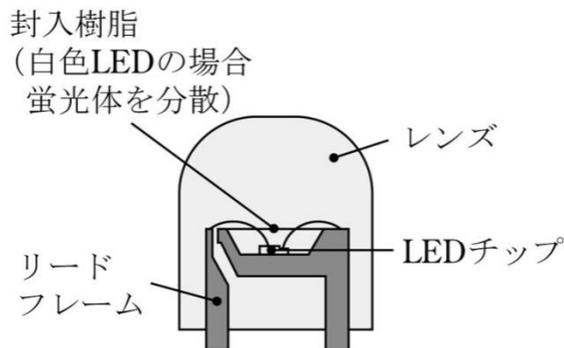
### マシンビジョン用照明

(エリア照明・ラインセンサ用照明)

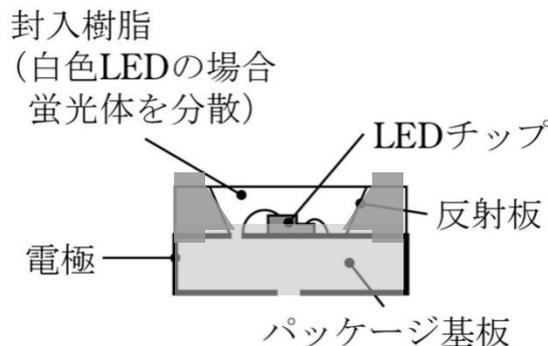


## LEDの種類と構造

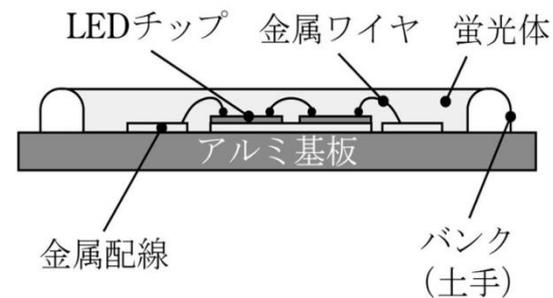
LEDは、LEDチップ、蛍光体、パッケージや封止樹脂などさまざまな部材を組み合わせ、複雑な光学現象、化学現象、構造力学現象をハンドリングしてつくりだされています。



砲弾型



表面実装(SMD)



チップオンボード(COB)

\* 参照: 公益社団法人日本電気技術者協会 電気技術開設講座

シーシーエスは、独自の技術で設計開発を行いオリジナルLEDの開発に取り組んでいます。

## 【SMDパッケージング技術】

### 高効率化

#### 【蛍光体】

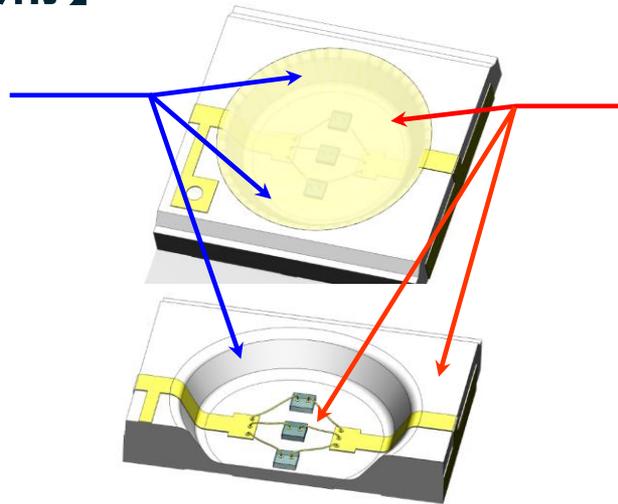
材料及び封止方法の最適化

#### 【封止樹脂】

材料特性、表面形状の最適化

#### 【リフレクタ形状最適化】

壁面高さ、角度、高反射率



### 長寿命化

#### 【封止樹脂】

耐熱・耐光性向上

#### 【ボンディング材料】

耐熱・耐光性向上、高放熱性

#### 【パッケージ材料】

高反射率、高放熱性

## 【COB実装技術】

### 高効率化

#### 【蛍光体】

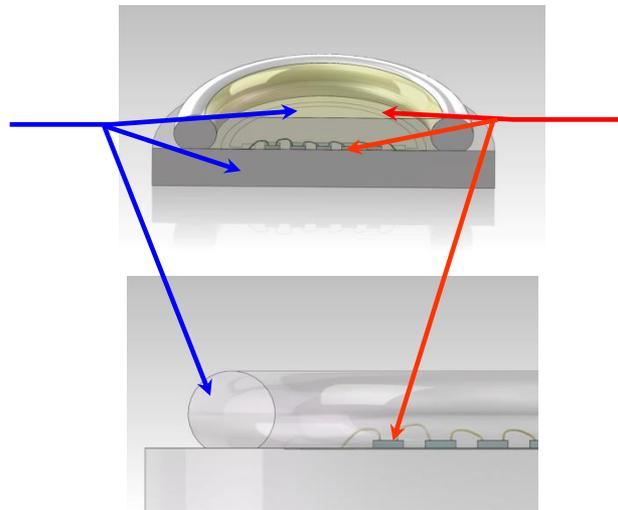
材料及び封止方法の最適化

#### 【ダム材】

高反射率、成型化

#### 【基板材料】

高反射率、高放熱性



### 長寿命化

#### 【封止樹脂】

耐熱・耐光性向上

#### 【実装パターン】

狭ピッチ、高反射率

#### 【ボンディング材料】

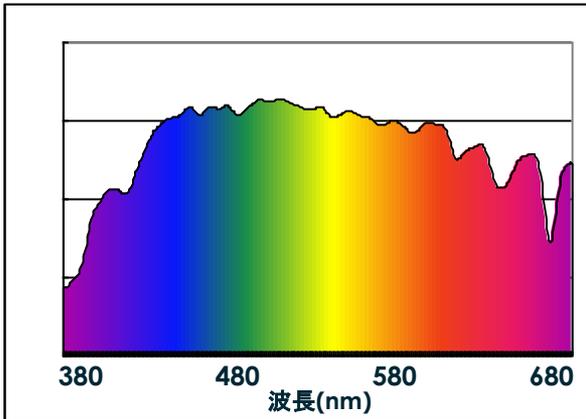
耐熱、耐光性向上、高放熱性

# 「自然光LED」とは

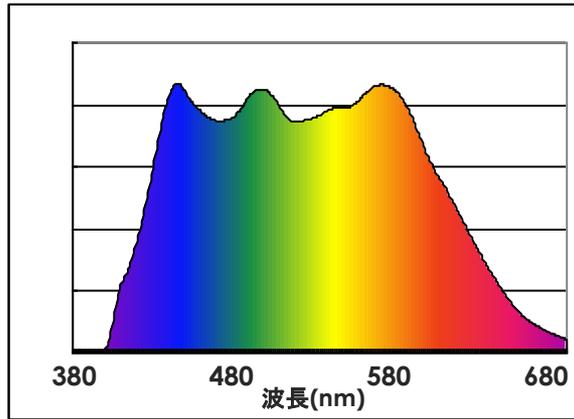


独自に開発した太陽光に近い光を再現する「自然光LED」  
色の再現性を標準化・数値化した平均演色評価数\*において、  
業界最高クラス“Ra98”(相関色温度:5000 K)を達成

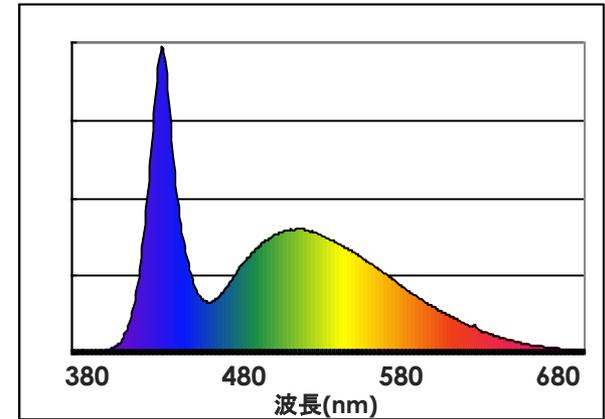
太陽光の分光分布 5200 K(AM:10時)



“自然光LED5000 K”の分光分布



一般的な白色LEDの分光分布



太陽光に近い分光分布で物体の色を忠実に再現

青色LEDの青が極端に強い



肌の色も自然に美しく魅せることができます

## CIE2015 マンチェスター大会

2015年7月 イギリス  
The University of Manchester

### ▶▶ 高演色白色LED照明下での絵画やカラーチャートの見え方について

近年、美術館などの展示空間において、LED照明が多く導入されるようになった。紫色励起の白色LEDは演色性が非常に高く(単位:Ra)、様々な色の再現性に優れている。しかし、色の見えが作品の印象に大きく影響する美術館でLED照明をより有効に活用していくためには、さまざまな特徴を持った絵画に関するデータを蓄積していく必要があり、2014年7月には、日本画の見えに与える影響を実験によって検証した。しかし、主観的な見えや好ましさは民族的・文化的背景の影響を受けやすいことから、様々なデータを集める必要がある。本研究では、LED照明が絵画やカラーチャートの見えに与える影響を、フランス人および日本人で実験し、絵画鑑賞に適した照明環境の検討を行うことを目的とした。

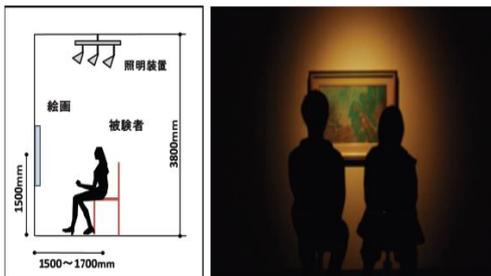


図1. 実験空間



図2. 実験を行ったカラーチャート、絵画

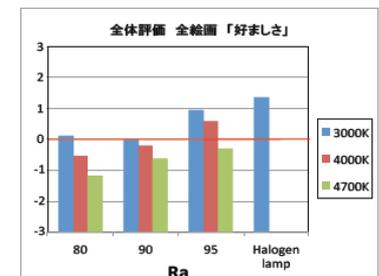


図3. 評価結果

今回の実験では、主観評価実験を行うことで絵画の見え方に影響する評価要素を明らかにした。結果として、紫色励起の白色LEDはフランス人でも日本人でも好ましい見えを得られたが、フランス人は色温度の高い白色LEDを好み、日本人は低めの色温度を好むことがわかった。また、ハロゲンランプとの置換えも充分可能な好ましさも得られることがわかった。今後は、色温度の影響について研究を続けていく方針である。

# 「自然光LED」搭載照明の商品化に注力



顕微鏡

美術館



生鮮食品などのショーケース用照明



食品



ホテル・会場

# 設備投資・減価償却・研究開発費の推移

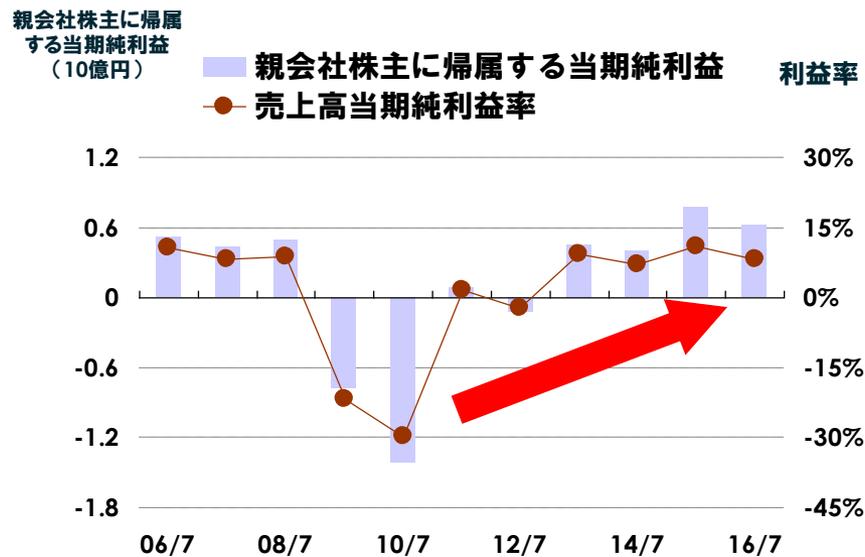
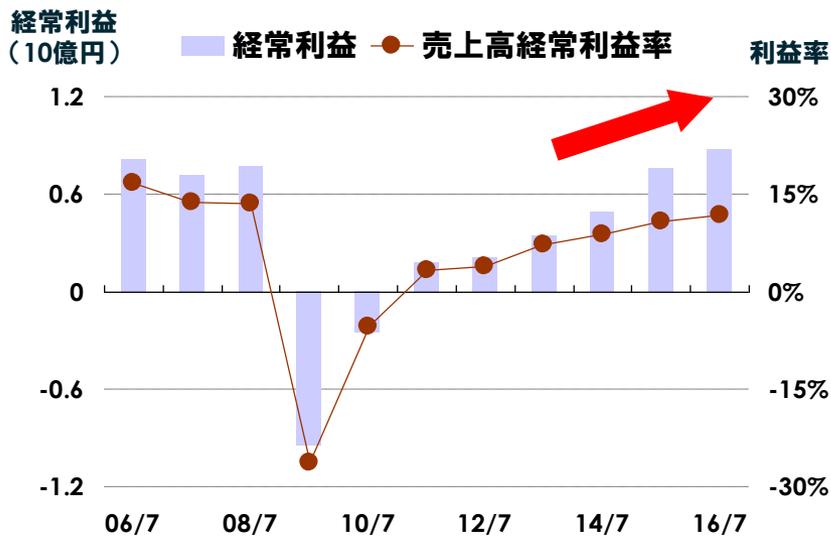
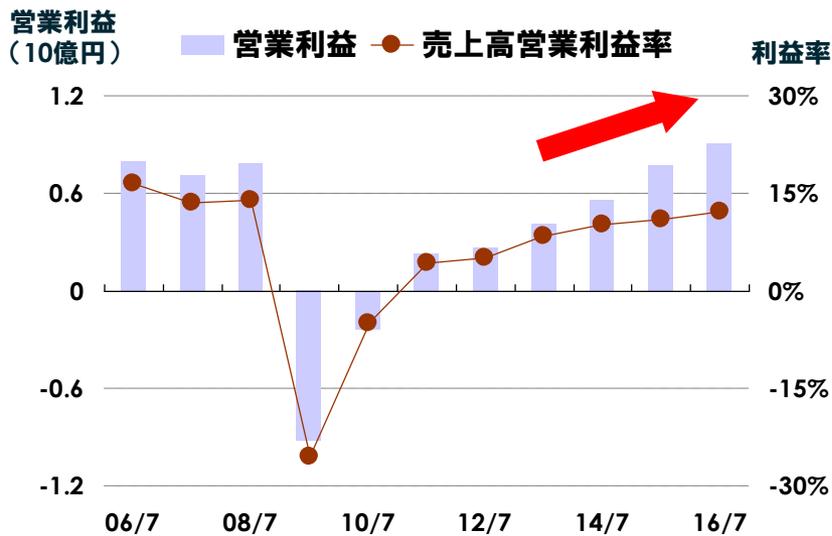
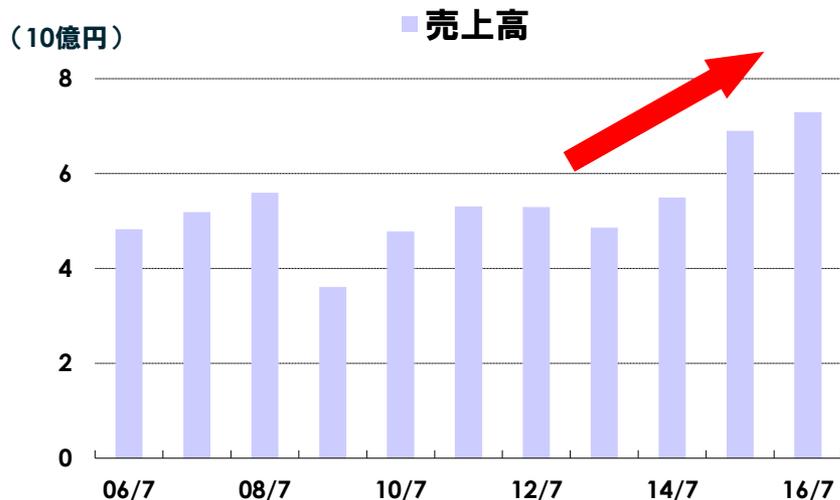
(単位:百万円)

	13/07 累計	14/07 累計	15/07 累計	16/07 累計	16/07 通期計画
設備投資	128	266	153	183	311
有形固定資産	103	160	108	145	268
無形固定資産	24	106	44	36	42
減価償却	124	146	164	158	221

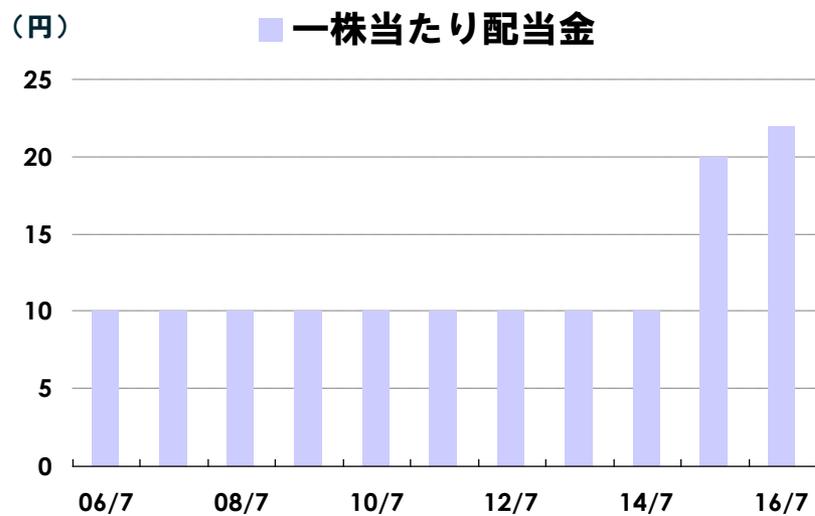
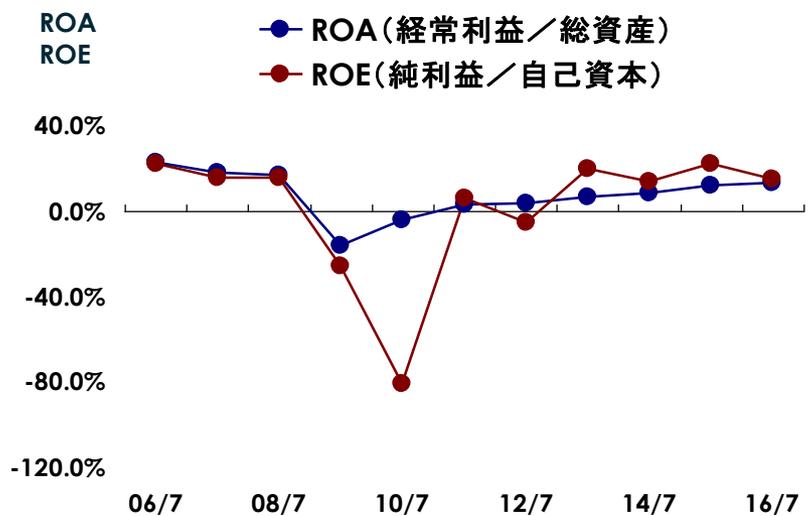
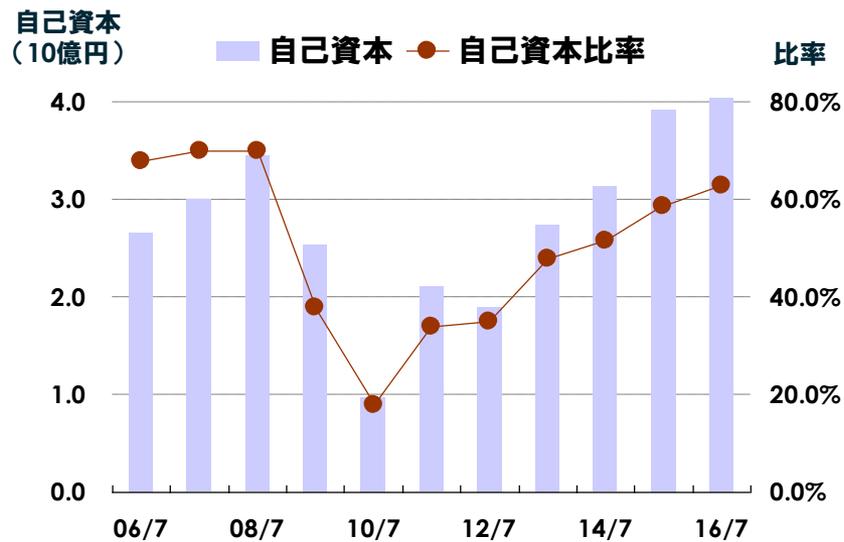
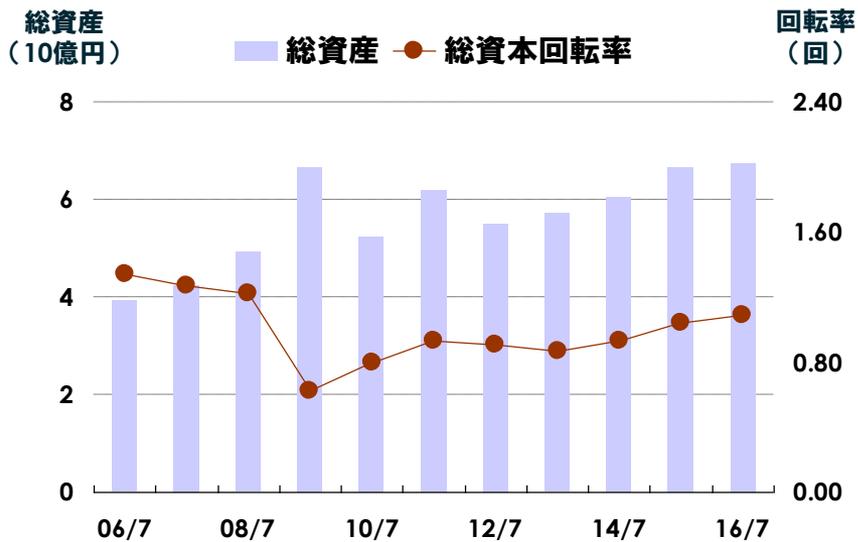
(単位:百万円)

	13/07 累計	14/07 累計	15/07 累計	16/07 累計	16/07 通期計画
研究開発費	449	464	486	545	645
対売上比率	9.3%	8.4%	7.0%	7.4%	8.3%

# 業績・財務指標の推移 (1)



# 業績・財務指標の推移 (2)



## 本資料取扱い上のご注意

本資料は投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。本資料に記載されている計画、見通し、戦略につきましては、作成時点において入手可能な情報に基づく将来に関する見通しであり、様々な不確定要素が内在しています。実際の業績は経営環境の変化等により、これら見通しと大きく異なる可能性があります。

### 本資料に関するお問合せ

シーシーエス株式会社 IR担当

TEL : 075-415-8291 FAX : 075-415-7724

E-mail : [ir@ccs-inc.co.jp](mailto:ir@ccs-inc.co.jp)